

Eureka VI

六年制通信 No. 16 平成30年9月28日(金)号

夏の読書からあれこれ

前にも触れましたが、夏はあれこれ短編を中心に読みました。忘れていたことや、知らなかったことなど、結構発見がありましたね。ポーの『黒猫』を読み返して、ふとTVドラマの「刑事コロンボ」を思い出しました。ネタバレですが、最後に壁から死体が発見されるシーンがありますよね。これ、おそらくポーのオリジナルだと思うのですが、コロンボさんに同じシーンがありました。いろんなところに使われているのですね、名作って。

また、こんな発見もありました。高校生の頃に小さなクイズの本みたいなので知った、忘れられないラブレター、いや恋文と言った方がいいかな、とにかく非常に洒落た表現があって、その時覚えて以来、使ってはいませんが、私はいまでも覚えているのです。紹介します。

「ふたつ文字、牛の角文字、すぐな文字、ゆがみ文字とぞ君は思ゆる」さて、これはどういう意味でしょうか、というものでした。答えは、ひらがな四文字。「ふたつ文字」は「こ」、「牛の角文字」は「い」、「すぐな文字」は「し」、「ゆがみ文字」は「く」、つまり、あなたのことを「恋しく」思っておりますという、今みたいに手紙に思いをしたためドキドキしながら彼女の下駄箱に入れるなどという、情緒あふれる行為が失われた、何というか、面白みに欠ける時代に生きる君たちには思いもよらないかもしれませんが、昔はこのように、書く方にも読む方にも少しは学がないといけなかったのですなあ。こんな恋文をもらって、意味が分からないのも情けないものね。

さて、夏に『徒然草』を読むと言いましたが、なんとなんと、その第六十二段にこの恋文があったのです。出典は『徒然草』だったのですね。ほぼ40年近く知らずにいました。これを発見したのは夜中でしたが、嬉しくて思わず声を上げてしまいましたよ。短いので全文を紹介します。私のテキストは旺文社文庫です。その p.112。

えんせいもんあん 延政門院、いとさなくおはしましける時、院へまゐ参る人に御言おんことづてとて申

させ給おんうたひける御歌、

ふたつ文字、牛のつの角文字、直すぐな文字、歪ゆがみ文字とぞ君はおぼ覚ゆる

恋しく思ひ参らせ給ふとなり。

みなさん、覚えて下さい。そして、いつか使えるといいですね。

生徒諸君が落ち着いて本を読んでいる光景はいいものですね。

図書館で読んでもいいし、借りてもいいし、本当は自分で買って読んでほしいけど、読んだ本の紹介をしあったり、感想を述べ合ったり、君たちがそういう雰囲気の中に育つことは、君たちのみならず、やがては君たちの子どもにもいい影響を与えると確信します。中学1年から3年までの国語の教科書に紹介されている本は、関教頭先生が調べてくれたのですが、全部で306冊です。教材に使われたものと読書案内を合わせるとそれだけの数字になります。全部読もうとすると、だいたい四日に一冊のペースでしょうか。私もリストを見ましたが、私の目から見て、これは中学生には難しすぎると思うものも入っています。私はこれらを図書館に完備しようと思います。ついでに、私の推薦図書100冊も揃えてもらおうかな。私は今まで「今週のおすすめ」などで、自分が読んで面白かった本を紹介してきましたが、読む読まないは君たち次第でいいと思っていました。しかし、最近、やはり生徒諸君が本に親しむ学校がよいと強く思うようになりました。「読書合宿」なんか、企画しようかな…。

Thank you!

体育祭のあと、6Cの女子が中心となって声をあげ、黄色チームの人たちがシートの片づけなどを自発的に行ってくれたと聞きました。ありがとうございます。自分たちの気持ちの発露がそのような形になったこと、きっと幸運の女神は微笑みながら観ていらっしやっただと思いますよ。

今週のおすすめ

・大倉崇裕 『死神刑事』 (幻冬舎)

この人の本は好きでほとんど読みました。私にとっては、疲れた時のリラックス効果があるようです。「警視庁から来ました」とは言わず「警視庁の方から来ました」と言いながら無罪判決の出た事件の再調査をする通称死神と呼ばれる男と、その相棒に指名された刑事たちの物語。短編集です。それはないでしょ、といったオチもありますが、そこはそれ、疲れた頭のリラックス効果だと思うことにしました。

ただ、本当に仕事のできる男、あるいは本当にやさしい男を書こうとしているとは感じましたね。

・葉室 麟 『散り椿』 (角川文庫)

映画になりましたね。それで、もう一度読み返してみたのですが、相変わらず葉室さんの作品には凜とした武士が登場しますね。葉室さんが早くに亡くなられて残念です。映画は原作と少し設定が違うようですが、主演の岡田さんは殺陣が上手なので観てみたい気がしています。不正を追及したため藩を追われた男が亡き妻の頼みを聞いて帰ってくるのですね。私が一番魅かれるシーンは、この男と妻の妹との別れのシーンです。情感あふれる美しい場面にしてあります。さすが、葉室さん。

BGMはイルカの なごり雪 でした…。